群馬県立伊勢崎高等学校　学校評価一覧表　（令和５年度版）

（別紙様式）

羅針盤			方策	点検・評価		達成度	達成状況のまとめ及び次年度の課題	学校関係者評価
評価対象	評価項目	具体的数値項目		自己評価	外部アンケート等	総合		
Ⅰ 特色ある学校づくりに努めていますか。	1 特色ある教育活動を行っていますか。	・本校の教育活動全般について、満足している生徒・保護者を80%以上にする。 ・学校が好きだと感じる生徒を80%以上にする。	・学校行事の開催に当たり、生徒自らが協力し運営する経験を通して、自己肯定感や対人関係能力を向上させる。 ・教育の質を高めるために、新たな研修制度の周知を図るとともに、全職員が連携して取り組めるよう組織力の向上を図る。	A	A	A	・教育活動全般について、満足していると回答した生徒は90.5%、保護者は91.2%であった。 ・学校が楽しいと回答した生徒は93.5%であった。 〇行事の目的を強く意識付け、主体性を伸ばし、自らの成長を自覚し自己肯定感を更に高めるような振り返り活動を充実させる。 〇教育の質を高めるため、ＩＣＴ活用を図りながら組織力の向上に努め、職員が連携して質の高い教育活動を一層推進する。	・教育活動全般について生徒と保護者双方の満足度が非常に高いことから、今後もこの水準を維持してほしい。 ・「伊高で学んでいる」ことが、人生を生き抜く力を得るとの共感を生徒と教師が共有できる環境、学ぶ時と場所と人を提供できる環境であると感じており、今後も継続してほしい。 ・生徒主体の取組が多く、体験を通して自己肯定感や対人関係が育っていると感じる。
Ⅱ 生徒の意欲的な学習活動について適切な指導をしていますか。	2 生徒の実態に応じた指導を行っていますか。	・生徒の授業満足度を80%以上にする。	・生徒の学力向上と基礎基本の定着のために、「個別最適な学び」の充実と「指導と評価の一体化」の実現に向けて、職員研修等を通じて、授業改善を推進する。	A	A	A	・生徒の授業満足度は93.2%であった。 ・授業等の学習活動を通じて、学力向上が実感できた生徒は81.4%であった。 〇非認知能力の育成を意識しながら、主体的に学習に取り組む態度の一層の伸長のために「指導と評価の一体化」に取り組みながら授業改善を推進する。	・社会性と感情(非認知)の学習と体と心を含めた多面的な視座から、生徒自身が課題発見、設定、学びの実践が大事である。インタラクティブな学ぶ実感を生徒が実践できる学習環境である。
	3 生徒は確かな学力を身に付けていますか。	・「発表する力」「聴く力」が高まったと回答する生徒を80%以上とする。	・授業や探究活動において、ICT機器を活用するとともに、協働的な学びを充実させ、生徒の表現力やコミュニケーション力を高める活動を積極的に行う。	B	B	B	・授業等において発表する力が高まったと回答した生徒は77.5%であった。 〇ＩＣＴ機器を活用することで、「協働的な学び」を充実させ、生徒の思考力・判断力・表現力の向上に向けた授業改善をより一層推進する。	・生徒のﾆｰｽﾞと主体的な学びの実現のために課題発見、課題設定更にに自らが学びを自分の言葉で語り、かつ他人の言葉を聴く学びの実践とそのための環境整備が求められる。
	4 読書指導を継続的に行い、読解力を付け、表現力を高めていますか。	・読解力が高まったと感じる生徒を70%以上にする。 ・読書への興味関心が高まったとする生徒を60%以上にする。	・クロムブックを活用した図書検索を推進し、図書館利用を活性化する。また学年団・各教科と連携し「読書の記録」を活用した読書指導を継続的に行う。 ・「読解力指導」の時間に適切な課題を精選し、様々な分野に関する要約･読解問題を作成し取り組ませる。	A	A	A	・総合的な探究の時間などを活用した読解力や表現力の向上については、77.4%の生徒が肯定的に回答した。 ・読書の記録の活用などを通して、読書への興味関心が高まったと回答した生徒は、66.8%であり、昨年度より約10%上昇した。保護者についても読解力及び表現力の向上への取組に関して、91.5%が肯定的に回答した。 〇読解力や表現力の向上を目指して、読解力指導及び探究活動の充実を図るとともに、各教科の授業や総合的な探究の時間において、生徒が自ら考え、発表する機会を増やす。 〇読書の重要性に対する全職員の共通理解のもと、図書の広報活動を充実させ、読書時間の増加を図る。	・自分が興味を持って読む本を選ぶことが大切である。「読書の記録」の活用が、ｾﾙﾌｱｾｽﾒﾝﾄ(自己評価)による毎日の読書習慣作りの推進となる。先生方がこれを見守りつつ生徒に読書の楽しみを奨励する様々な助言等で支援してほしい。 ・読書への興味関心が高まっている要因として、昨年度との差異を明確できるとよい。 ・探究活動等を通して生徒が主体的に読書に取り組む姿勢が根付いてきたと推察する。
Ⅲ 生徒の充実した学校生活について適切な指導をしていますか。	5 組織的・継続的な指導を行っていますか。	・身だしなみ違反数や自転車事故件数を昨年度以下にする。 ・学校全体のヘルメット着用率を100%にする。 ・悩み等の相談体制への満足度を80%以上にする。 ・教育相談だよりを年10回以上発刊する。	・身だしなみ指導、登校時指導、交通安全指導等を通して生徒の自己管理能力の育成を図る。 ・ヘルメット着用の推進を図る。 ・日常の生徒観察等を充実させ、悩みを持った生徒を早期に把握し適切に指導するとともに、スクールカウンセラーと連携して組織的に対応する。	B	A	B	・身だしなみ指導の違反数は昨年度と検査項目を少し変更（爪についての検査を追加）したため160件で、昨年度の70件より大幅に増加している。 ・交通事故件数は17件（1月16日現在）で、昨年度の15件から増加傾向にある。 ・ヘルメット着用率を5月に学校全体で調査をしたところ自転車通学者のうちヘルメットを着用している生徒は98%であった。 ・悩み等の相談体制については、生徒の92.8%が肯定的に回答していた。 ・教育相談だよりは年に3回の発刊にとどまったが、それ以上に日頃の見守り活動を徹底して行い、予兆を感じるような生徒には積極的に教員側から声をかけ話を聞くようにこころがけた。また、スクールカウンセラーとの連携を密に取り、毎回来校される際は相談の時間が足らないほど対応していただいた。 〇学校の校則等を見直しながら、身だしなみなど生活習慣の改善に向けた取組を、教職員が一体となって行う。 〇自転車乗車時にヘルメットを着用することが、事故に遭遇した場合、自分の命を守ることにつながることを理解させ、ヘルメット着用の定着を図る。 〇スクールカウンセラーをはじめ、必要に応じて外部機関との連携を密にしながら、引き続き、悩みを持つ生徒への支援を丁寧に行う。	・挨拶、身だしなみは、「何のために」を明確にして、日々の実践の継続が大事である。あるべき姿を示し伊高の「当たり前」のレベル向上を継続してほしい。伊高は、しっかりできていると思う。 ・何が危険なのか、身だしなみのどこが悪いのかが理解できないと直らない。 ・挨拶や身だしなみ等の基本的生活習慣は、短期間で身に付けられるものではないので、ぜひ現在の取組を継続してほしい。
	6 学校はいじめの防止や早期発見に向けた取組を積極的に行っていますか。	・ＳＮＳ等に関するいじめや犯罪被害をなくす。 ・いじめの発生防止に努め、いじめの解消率を100%にする。	・伊高スマホルールを遵守させる。 ・いじめ悩みアンケートを年に３回実施し、いじめ防止と早期発見に努める。	A	A	A	・いじめ防止や早期発見に向けた学校の取組について、生徒の93.3%、保護者の94.9%が肯定的に回答していた。 ・ＳＮＳ等に関連した犯罪被害数は０件であったが、いじめに発展しそうなトラブルや問題行動が数件見うけられた。 〇日常的な生徒観察や保護者との連携により、いじめの未然防止及び早期発見に努め、迅速で組織的な取組を充実させる。 〇スマートフォンやSNSの使い方について生徒に考えさせ、思わぬかたちでトラブルにならないよう生徒の情報モラルを向上できる取組を行っていく。	・いじめは、生徒のその後の人生まで左右するほどの大きな破壊力をもっていることから、その撲滅に努めてほしい。 ・聴いてもらえる環境、話せる環境づくりを、普段より、学校全体で構築し、生徒との情報共有及び相談できる安心感と活用する信頼感を育むための環境及び情報発信活動を継続してほしい。
	7 生徒は健康で、規則正しい学校生活を送っていますか。	・部活加入率を90%以上にする。 ・「挨拶がきちんとできる」と回答する生徒を80%以上にする。	・生徒会と連携し、部活動の振興と挨拶の励行を広く呼びかける。 ・上位大会への挑戦、ボランティア活動への積極的参加など、生徒の活動意欲を高める指導を継続する。	A	A	A	・部活動加入率は88.1%(運動部49.5%、文化部38.6%)であった。以前より、運動部の割合が減少し、文化部の割合が増加している。 ・部活動について、生徒90.8%、保護者91.0%が肯定的に回答していた。 ・挨拶やマナーについて生徒97.3%、保護者93.1%が肯定的に回答していた。 〇今年度は新型コロナウイルス感染症が5類に移行したことをうけ、これまでのような活動の制限がなくなった。これまで以上に部活動を通して、心身の鍛練や社会性の育成など人間力の向上を目指した取組を進め、部活動の振興を図ることで学校全体の活気につなげたい。	・部活動は、活発な状況と感じている。また、指導する教職員の方にも敬意を表したい。部活動の経験体験が、学業以外の課外活動も含め、学業との両立ができるように、見守りと支援指導を継続してほしい。 ・部活動加入率の高さに感心している。部活動に打ち込むことは非常に有意義だが、その一方で部活動と学習の両立が困難な生徒への対応など、個々の生徒に応じたきめ細やかな指導が必要になるかと思う。
Ⅳ 生徒の主体的な進路選択について適切な指導をしていますか。	8 計画的な指導を行っていますか。	・進路を意識して学習する生徒を60%以上にする（１年）。 ・具体的進路目標の定まった生徒を70%以上にする（２年）。 ・進路目標が定まり、学校からの進路情報が有意義であったと考える生徒を90%以上にする（３年）。	・進路講演会（保護者対象）、進路ガイダンス（生徒対象）、進路情報誌の配付等により、進路意識の高揚を図る。 ・「スタディサポート」「学びみらいPASS」等を活用して学力と進路意識向上を図り、進路希望の実現につなげる。	A	A	A	・生徒の進路目標達成に向けた取組については82.6%が肯定的に回答し、また、保護者は進路指導の取組に対し、89.0%が肯定的に回答した。昨年度よりやや減少しているのでＬＨＲ等での計画的な指導をしていきたい。 ・１年生の家庭学習時間は90分を切り、2年生は60分程度だった。1年生の進路目標は94.2%の生徒が四年制大学志望であり、2年生は76.6%だった。2年生の家庭学習時間と四年制大学志望率がやや低いので具体的な進路指導をＬＨＲ等で実施していきたい。 〇1年生で大学･企業見学、インターンシップを実施できた。今後も継続していきたい。 〇もっと高みを目指すような進路指導を実践し、より将来への職業観育成へつなげていきたい。	・まだ自らの進路を漠然と考えている生徒が多いのではないかと感じる。生徒一人一人が、自分の夢の職業を見つけられるとよい。 ・学年別にテーマを設定する取組は、人生100年の視座から自分の将来を考える良い機会と思う。あわせて金融経済教育の取組と学びの機会を持つことも大切である。
	9 生徒は自らの進路について真剣に考え、その実現に向けて取り組んでいますか。	・「学年+１時間の学習時間」確保しようとしたと回答する生徒を70%以上にする。		B	B	B	・「Classi」などを活用した学習意欲の向上については、全体で67.6%の生徒しか肯定的な回答をしておらず、昨年度と比較して減少している、目標と十分に達成できたとは言えない。今年度はスタディサプリの利用を促したが、Classiの活用は十分とは言えなかった。 〇今年度は1･2年生でスタディサプリの利用促進を２学期に実施した。特に来年度より情報が共通テスト科目に加えられるため、今後もスタディサプリの利用を促し、自主的な学習活動へとつなげていきたい。	・Classiの活用により、生徒がより主体的に進路を選択できる指導を強化できればよい。 ・Classi等の活用が、時間管理の習慣の実践になる。知的情熱にあふれた生徒のための、記録したことが記憶に残り、省みて改善するPDCAの実践が身に付くことを期待する。
Ⅴ 開かれた学校づくりに努めていますか。	10 家庭、地域社会に積極的に情報発信をしていますか。	・ＨＰをよりタイムリーに更新できるようにする。 ・学校説明会、オープンスクールにおいては様々な発信方法を視野に入れつつ、来場者・閲覧者数を昨年度以上にする。	・様々な情報発信ツールの活用と内容の充実に努める。 ・「伊高だより」等を定期的に発行し、保護者や地域、中学校等に学校の活動を伝え、それらをＷｅｂページでも公開する。	A	A	A	・「伊高通信」とともにWebページ更新を積極的に行った。このような広報活動を保護者の95%が肯定的に評価した。 ・学校説明会、ｵｰﾌﾟﾝｽｸｰﾙについても予定通りに実施できた。 〇国際理解教育、探究活動など本校の特色ある教育活動を中心に、Webページ等のインターネットツールによる情報発信を継続しながら、学校の教育活動を保護者、地域、中学校等に対しての積極的な広報活動を行っていきたい。	・情報連絡網を教師と生徒、保護者、地域間に確立し、その最大限の活用が大事である。あらゆる機会を通しての情報発信が現代の新しい情報共有を実現できる。 ・「伊高通信」、Webページなど、様々な媒体を活用して、教育活動を積極的に広報し、学校と家庭や地域間の連携を深められている点を高く評価する。
Ⅵ 教育デジタル化に努めていますか。	11 ＩＣＴを活用した指導を行っていますか。	・学習端末活用に関する職員研修を複数回実施し、日常的に学習用端末を活用する職員を80%以上にする。	・生徒一人一台学習端末貸与に対応した授業がより充実できるような環境や体制を整備する。	A	A	A	・教員の84.0%が、日頃からＩＣＴ機器を活用して授業を行うことができると回答した。 〇生徒の一層の学力向上に向けて、一人一台の学習用端末のより有効な活用方法を検討する。	・生徒と教師とのｸﾞﾛｰﾊﾞﾙｺﾐｭﾆﾃｨ構築のための教育IT環境整備が大切である。時代をｷｬｯﾁｱｯﾌﾟする人材とPC機材のスピード感が必要となる。知識及び機材の陳腐化は早く、新陳代謝の継続が、求められている。
	12 ＩＣＴを活用した業務改善を行っています	・授業以外の業務でICTを活用できる職員を80%以上にする。	・ICTの活用した職員研修及び授業研究会を実施し、職員の資質向上を図る。	A	A	A	・教員の94.0%が、授業以外の場面でＩＣＴ機器を活用することができると回答した。 〇生徒の理解力向上に向け、授業等でICT機器を有効活用できる教員を更に増加できるように職員研修を一層充実させる。	・DXの鍵は、組織の変革(ｺｰﾎﾟﾚｰﾄﾄﾗﾝｽﾌｫｰﾒｰｼｮﾝ)と個人の変革(ﾊﾟｰｿﾅﾙﾄﾗﾝｽﾌｫｰﾒｰｼｮﾝ)である。生徒と教師とが参加して、ｸﾞﾛｰﾊﾞﾙｺﾐｭﾆﾃｨ構築とDX変革を実践している状況である。
Ⅶ 積極的な国際交流と実用的な英語教育に取り組み、国際社会に通用する資質を身に付けさせるよう努めていますか。	13 グローバル人材の育成に向けて、実践的コミュニケーション能力の育成推進を図っていますか。	・年３回、県立女子大との連携を行う。 ・英検２級以上の合格率を普通科20%以上、グローバルコミュニケーション科50%以上にする。	・県立女子大外国語教育研究所の研究員によるコミュニケーションを重視した学習の実践を通して、高大連携の強化を図る ・英検・ＴＯＥＩＣなどの資格試験の受験を推奨し、自己目標を設定させ、英語学習の意欲を喚起する。	B	―	B	・県立女子大学との連携事業については年３回実施した。この中で、活動内容を改善してディスカッションと発表に重点を置き、生徒の英語力向上に務めた。 ・英語４技能をバランスよく伸ばす指導に努めながら、英検取得に向けた指導体制の強化を図った。 〇県立女子大学との連携授業は、複数のネイティブの先生から直に英語でのコミュニケーションの取り方について指導を受けた。時事問題について英語で討議するよい機会にもなるので今後も継続したい。 〇資格取得率が上がり、英語学習へのモチベーションも向上している。今後も英語４技能をバランスよく伸ばす指導に努めながら、学校全体で英検取得に向けた指導体制の強化を図る。	・コンピュータ習熟と外国語習得が大事である。生徒同士が互いに感化され、動機付けられる外国語の学びを質及び量を共に充実させ、同時に、「人財」育成の視座からの積極果敢な支援を希望する。 ・高校生のときに英検取得に熱心に取り組んだ体験は、卒業後の英語学習にもよい影響をもたらす。ぜひ組織的な指導に取り組んでほしい。 ・欧米だけに限定せずアジア諸国等にも目を向けることは重要である。韓国語を熱心に学ぶ生徒の存在は他の生徒によい刺激となる。
	14 国際理解教育の充実を図っていますか。	・グローバルコミュニケーション科の英語学習プログラムについて、満足している生徒を80%以上にする。 ・異文化に興味を持つ、グローバルコミュニケーション科生徒を90%以上にする。	・英語学習プログラムの実践や国内や海外の英語研修(派遣･受入)のプログラムを通して、生徒の実践的コミュニケーション能力の向上を図ると共に異文化理解を深める。あわせて、オンラインでの国際交流も模索する。	A	―	A	・ＧＣ科の英語学習プログラムについて、100%の生徒が満足していると回答した。 ・ＧＣ科生徒の93.1%が異文化に興味があると回答した。 〇ＧＣ科生徒の英語学習プログラムへの関心が大変高いことから、学習プログラム改善し更に充実させる。必要に応じて外部機関と連携し、欧米だけではなくアジア諸国等にも目を向け、生徒の異文化に対する理解深化を図る。	・日本の歴史、文化風俗等の理解を深めながら、異文化、国際理解の学びが大切である。グローバルな学びの環境造りで、広くかつ深く学ぶ実践と体験、経験を通しての学びの環境充実が大事と思う。